



# 植付け深さの違いによる ハナニラの品質・収量への影響

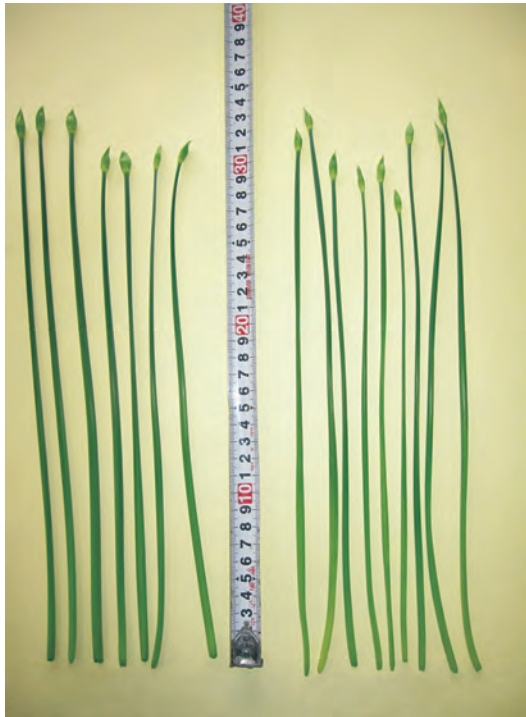


写真1 植付け深さの違いによる品質の違い  
(5月28日収穫)

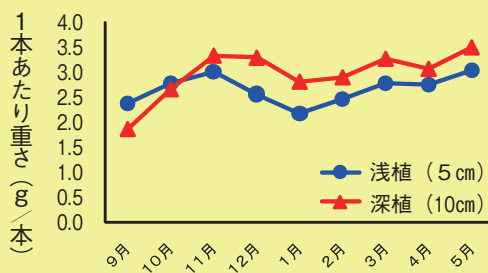


図1 植付け深さと花茎重との関係

ハナニラの収量を上げるため、これまで植付け本数や栽植密度について検討した結果、1株当たり4本植または6本植で、a当たり800株植が良いことが明らかになってきました。しかし、ハナニラは花茎のみ収穫し、地上部を刈りとらないため過繁茂となり、11月以降の株の倒伏の発生や、花茎が細くて軽いなど品質低下がみられることが問題となっていました。

今回、花茎の品質向上を図るため、植付けの深さを従来の5cmから10cmにした栽培試験を行いました。生育については、

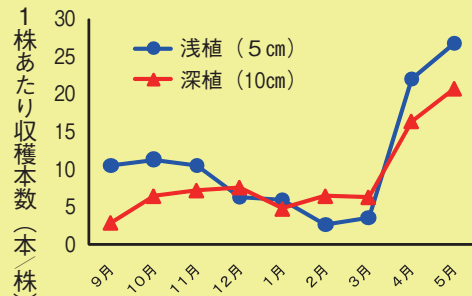


図2 植付け深さと月別収穫本数との関係

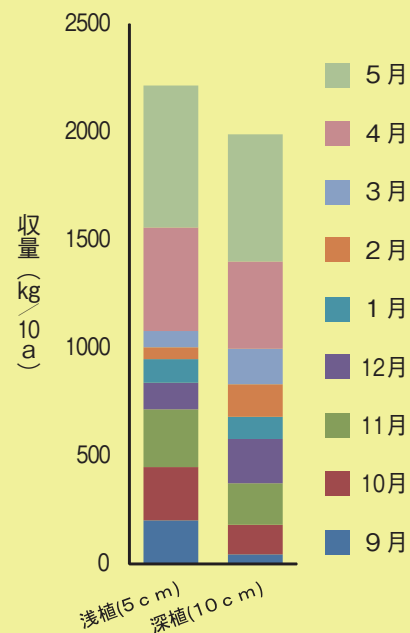


図3 植付け深さと収量との関係

平成21年7月3日定植、6本/株、800株/a  
収穫期間9月9日～5月末、無加温栽培

深植えにすることで、葉幅や葉鞘径の大きい、しっかりした株となりました。収量については、出蕾は遅れ、初期収量は抑制されましたが、11月以降花茎重は重く、品質が良くなりました(写真1、図1、3)。2～3月は月別収穫本数、収量ともやや増加し、浅植え栽培に比べて収穫の山谷が少なくなることが明らかになりました(図2、3)。しかし、5月までの総収量は少なくなりましたので、今後も高収量技術の検討をしていきます。

(山間試験室 横山知紗 0887-72-0058)